
とある呪いの上条一族

エイジャア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある呪いの上条一族

【コード】

N2956T

【作者名】

エイジャア

【あらすじ】

最強は誰しも求める物、じゃなきゃ戦争が起こる理由が分からない。

科学と魔術の融合による最強、考えれば判る事だった。超能力と魔術の融合、2つの力をあわせれば、世界を手中に治められると言っことを

だが実現は難しい、能力開発すれば魔術は使えなくなるでも原石のままなら・・・

窓のないビル

「こんにちは アレイスター」

「・・・何の用かな？」

「はあ、少しぐらい乗ってよー」

「生憎、暇じゃないんだよ」

(浮かんでるだけのくせに)

15歳ぐらいに見える長髪の青年はビーカーの中に友達のように喋りかける。

「ところでえ、そろそろ時間なんです。」

「・・・へえ」

「反応薄っ！そんなに嫌いですか？」

「だって私には利益が無いからね」

「とにかく、大切なモノは握りしめておくんだよ、じゃあねえ」

そう言って青年は去って行った

「土御門を呼べ」

そうビーカーの住人は言った、しばらくして

「どうしたんだ？アレイスター」

「魔術側の人間を幻想殺しの護衛に就かせてくれ、それとアイテムを解散させる」

「いきなり、何故だ」

「ただの軌道修正だよ」

そうすると、金髪サングラスの少年は無言で去った

アイテムはアイテム

とあるファミレス

4人の女の子と1人の男が絶句している。それは、一本の電話からはじまった。

上司からの電話だった

「アイテムを解散する」

それだけ言って上司は電話を切った。嬉しいような悲しいような一言だった

(・・・もう、みんなという理由が無いのか)

そんな彼女の気持ちを知ってか、ピンクのジャージの女の子が言った

「ねえ麦野、会いたい時會おうね」

「う、うん」

「てか、みんなこれから超どうするんですか？」

「俺は、とりあえず金稼がないとな」

(そして、滝壺と・・・)

「超浜面、超キモいです」

「大丈夫、ニヤけててキモい浜面も応援してる」

しばらく、沈黙に包まれた

「結局、また会えるってわけよ」

「ねえ、私・・・優しく・・・なる」

麦野と呼ばれた女の子が言う

(みんなと・・・一緒に居てもいい人間になる)

「・・・へっ?」

「浜面、超空気読んでください」

「そんな事しなくても、私は麦野を応援してる」

それからはいつもと同じ空気がみんなを包み込む

デルタフォースは学校の中で

昼休み

「そういえば、上ちゃん」

「むっ！不幸の臭いがする。とりあえず全力ダッシュで逃げる」

「えっ？ちよっ待つんだにゃー」

「いつまでも不幸に振り回される上条さんじゃないんですよ」

机に座っていた魅力的なおでこのクラスメイトが上条当麻に叫んだ

「上条当麻！教室内では走るな！貴様はすぐ転ぶ・・・」

「のへえ？」

ダサ過ぎる声をあげて派手に転ぶ、綺麗にビシッとフラグを建てながら

「じっごめん吹雪」

クラスメイトの雪野吹雪が上条当麻に押し倒される形で倒れていた

「だっただだっ大丈夫だよ、上条くんは？」

そこで上条当麻は気付く周りにいる男達の視線が突き刺さってくる

「上条さんは大丈夫ですよ・・・今は」

そこに、青髪にピアスの男が現れる

「かぁ〜みやぁくん？お時間ですよ？」

「・・・あつ、そういえば土御門さん？お話ってなんでせうか？」

「ああ、話は屋上でするぜよ」

金髪サングラスの男はニヤッと微笑んだ

よってらっしゃい見てらっしゃい。

屋上

「で、土御門話ってなんだ？」

「ああ、ちょっと上やんの護衛を決めるぜよ。さあよってらっしゃい見てらっしゃい、ねーちゃん、レッサー、五和にアニーゼ、シェリーからルチアまでよりどりみどりだぜい？」

土御門がワクワクした顔で返事を待つ

「ううん、悩むなあ……。じゃなくて！何の護衛だよ？」

「いつも通り、上やんが狙われてるんだにゃー」

「じゃあ、いつも通り拒否権は無いんですね？不幸です」

ハアとウニ頭がため息をつく

「で、誰にする？おすすめは勿論ねーちゃんぜよ、他のお姉さん系はキヤーリサ、シェリー、オリアナ、オルソラ、ルチアぐらいだにゃー」

「あれ？ちよつと待て、護衛って事は24h体制？もしかしたらあの五和の美味しい料理が？」

「んじゃあ、五和とレッサーで決まりだにゃー」

「おい！早すぎる、あとレッサー何処から出てきた？！」

勿論、土御門は全く聞いていない

「もしもし？護衛は五和とレッサーで決定だにやー」

ロンドン

「護衛は五和とレッサーで決まりけるのよ！」

足まで伸びた美しい金髪の少女？が報告する

「何時からここは恋する乙女の広場になったんだい？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2956t/>

とある呪いの上条一族

2011年9月19日19時10分発行